

令和7年1月定例記者会見 市長原稿

まずはじめに、本年1月10日に発生いたしました、個人情報などが記載された介護保険認定調査票の紛失事案に関し、お詫びと現在の状況を説明させていただきます。

1月10日(金曜日)、本市介護保険課に所属する介護認定調査員1名が、訪問調査のため外出した際に、個人情報が記載された「介護保険認定調査票」1枚を紛失する事案が発生いたしました。

市役所出発時には、保有しており、調査対象者宅を訪問した際に、紛失に気がついたものです。

本市では、調査対象者の自宅周辺などを検索するとともに、ご本人にお会いし、状況説明と謝罪をしております。その後、1月14日(火曜日)に、竜ヶ崎警察署に遺失届を提出し、受理されております。

なお、現在のところ、発見には至っておらず、また、書類の紛失による、ご本人への二次的な被害は確認されておられません。

ご本人をはじめ、市民の皆さまの信頼を損ねる事態となりましたことに、改めてお詫び申しあげますとともに、再発防止策の徹底と書類の管理体制の見直しを図り、市民の皆さまの信頼回復に努めてまいります。

このたびは、誠に申し訳ございませんでした。

それでは、本日の提供情報を前に、まちの話題をご紹介します。

令和7年を迎え、龍ヶ崎がより前に進み、羽ばたく年にしていきたい、そんな強い決意をもって、スタートした年は、早くもひと月が経とうとしています。

1月11日には、龍ヶ崎市消防出初め式が執り行われ、私も消防署員・消防団員の皆さんが消防車両で勇ましく、整然とパレードする姿を観閲いたしました。

「自分たちの街は、自分たちで守る」という姿に逞しさを感じるとともに、皆さんにこの街を守っていただいている、そのような感謝の心を改めて抱いたところがございます。

翌日1月12日には、約600人の“たつのこ”たちが出席した「龍ヶ崎市二十歳のつどい」で、お祝いの言葉を伝えさせていただきました。

この街の未来を託す若者たちに「どうか、龍ヶ崎を好きという気持ちを持ち続けてほしい」「ひとつでも、自分の住む街の良さを見つけてほしい」という言葉を贈りました。

新年早々の行事に参加し、この街が元気であり続けるため、魅力あふれる街にするため、そして、龍ヶ崎が好きで、この街を元気にしたい！そう思ってもらえるためには、どのようなことに取り組むべきなのか、職員とともに、常に悩み、考えたうえで、実行していきたい、そのような思いを強くしたところでもあります。

さて、今年に入って動き出しております事業をご紹介します。

少子化が加速している現代において、子育て世代の方が、より手軽に、いつでも不安が解消できる環境をつくることは、行政の役割のひとつであると、考えております。

そこで、本市では、安心して子育てをしていただくため、小児科医にオンラインで相談できるサービスを導入する予定で準備を進めております。

この事業は、令和7年度当初予算にも計上させていただき予定の一つではございますが、すでに12月議会において、債務負担行為の議決を得ておりますため、1月20日から15歳以下のお子さまがいる市民を対象に、サービスを体験していただく、「小児医療オンライン相談」のトライアルをスタートいたしました。

トライアルでは、毎日24時間、LINEや専用サイトで子育てに関する不安や悩みを気軽に相談できるほか、平日夜6時から10時までは、予約の上で電話やチャット・ビデオ通話などで、子どもの急な体調の変化があった際には、医療機関への受診が必要かも直接、小児科医に相談できます。

ぜひ、市民の皆さまにご活用いただき、子育ての悩みなどが少しでも解消につながる支援ができればと考えております。

なお、本格導入は来年度となる見込みであることから、詳細が確定する3月末に、改めてご案内させていただき予定です。

次に、本市の魅力のひとつであります、食に関して、今後予定している取り組みをご紹介します。

今年度の農産物プロモーション事業のひとつとして、本市の食材がメインに使用し、龍ヶ崎ブランドの看板を掲げた、期間限定レストランを2月中旬から1ヶ月程度、東京・青山でオープンする予定となっております。

まもなく、旬の季節を迎える茨城県銘柄産地指定の「龍ヶ崎トマト」をはじめ、本市ブランド農産物の米など、本市が誇る食材を多くの方に知っていただけるよう、担当が準備しております。メニューやオープン日などの詳細は、2月上旬にご案内できる予定となっておりますので、ご期待ください。

それでは、本日の情報提供に入らせていただきます。

はじめに「多世代交流センター・RINK のロゴ決定」に関する情報提供です。

現在、令和7年4月のオープンに向け、市役所のそばに建設中の「龍ヶ崎市役所保健福祉棟」3階に設置する多世代交流センター「RINK」のロゴが決定しました。

多世代交流センターは、昨年6月の定例記者会見で愛称募集の情報提供をさせていただき、愛称を「RINK(りんく)」に決定したところです。多くの皆さまのお力もあり、市内外から561点の応募をいただきましたことに、この場をお借りし、改めて感謝申し上げます。

このたび、施設の認知度を高め、より多くの皆さまにご利用いただくために、施設のロゴマークを制作しました。

本市らしいグリーンを基調とした、ロゴマークでは、市民が、ここに集うことで、多世代、多様性を実現していく様子に加え、龍の環は市民一人ひとりを繋げていくその意思を、そして龍の中に点在する大・中・小3つの「円／縁」は、高齢者、大人、子どもの交流を表現しています。

このロゴマークと愛称「RINK」を通じて、この施設が子どもから高齢者まで様々な世代が気さくに集える場所となることを願っております。

この施設は、市の最上位計画である「龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030」でも政策の柱に掲げている、「健康」、「子育て」、「高齢者福祉」、「市民交流」の4つの機能を集約しています。

なお、後日ご案内いたしますが、施設が完成した際には、報道機関の皆さま向け

の内覧会も予定しておりますので、ぜひ、ご見学いただけますと幸いです。

次に、「牛久沼カヤックペイント作品の市庁舎での展示」に関する情報提供です。

本市では、大切な地域資源であります、牛久沼の活用を様々な視点から検討しておりますが、このたび、県立竜ヶ崎第一高等学校附属中学校の生徒が主体となって実施した「牛久沼の認知度向上」イベントで使用された、色鮮やかな「カヤック」の展示に協力いたします。

「カヤック」は、令和7年2月4日(火曜日)から2月13日(木曜日)まで、龍ヶ崎市役所1階ホールにて展示する予定です。

本日、この場にもお越しいただいておりますが、中学生自身が、地域の魅力を調べ、「牛久沼」の認知度向上に向け、どのような活動が必要かと考えた事業のひとつであります。

多くの市民の方々に、牛久沼の認知度向上に向けて活動する子どもたちの活躍を知っていただくべく、報道機関の皆さまには、ぜひ取材のご協力を賜りたく、この場をお借りしてお願いいたします。